

飛鳥奈良時代の土師器

—横手市で出土した土師器を中心に—

島田祐悦（横手市教育委員会）

1. 土師器とは？

- ・弥生土器の流れをくみ、古墳時代から平安時代まで生産された素焼きの土器
- ・手づくねで成形するが、平安時代以降にロクロを使用したものが増加
- ・焼成坑を地面に掘って焼くので密閉性はなく、酸素が供給される「酸化炭焼成」によって焼きあがる。
- ・焼成音では須恵器より低い800～900度で黄褐色・褐色・橙色をしているものが多い。

2. 竪穴建物（住居）跡から出土する土師器（土器）

- ・当時の食卓に使用された食器で、当地域の生活文化の様相や地域相互の文化の交流関係の一端を示す。
- ・当地域の竪穴建物（住居）跡から出土する土師器が搬入された須恵器または在地生産された須恵器によって、食器の構成がどのように変化していったかを検討できるもの。

3. 竪穴建物（住居）跡から出土する土師器（土器）の器種（概念）

○食膳具

- ① 坏⇒椀や鉢よりも器高が低く、皿よりは器高の高い器。器の口径と高さの比が50%未満を坏、それ以上を椀といたりするが、定まっている訳ではない。飯や一品を持ったもの。坏身が浅いものや深いものもある。
- ② 大型坏⇒坏の口径が20 cm以上のものを概ね指している。
- ③ 椀⇒ご飯や汁を盛るもの。土器は「埴」、木器は「椀」、陶磁器は「碗」の字があてがわれることも。
- ④ 高坏⇒坏身に高い足が付いたもの。「高杯」とも書くが木器の場合が多いと思われる。

○貯蔵具

- ⑤ 壺⇒土器の胴部が球形に張り出し、底部と口縁部から頸部がつぼまった器。水・酒・穀物などの保管のための容器とされる。用途に応じて、大きさに大小がある。

○煮炊具

- ⑥ 甕⇒土器の胴部が長く長胴甕と呼ばれることも。底部が細く頸部もしくは胴部上半に向かうにつれ、広がっていく。土器外面胴部に煤状炭化物や内面口縁部に灰汁の痕跡があるものが多い。用途に応じて大小や器形が異なるものもある。
- ⑦ 甑⇒穀物などの蒸し器。鉢か甕の底部に、下の器から沸いた湯気をあげる単穴や複数穴を開ける。また、鉢や甕の底部がないものなどがある。土器内部にすのこや、麻布などを敷き、蓋をして食物を蒸す。大きさに大小が確認される

○万能具

- ⑧ 鉢⇒皿よりは深く、壺よりは浅く開いた器で、食物や水などを入れる。托鉢・火鉢・植木鉢など用途が様々である。椀・壺・甕にあてはまらないもの（どちらにでもとれるもの）を鉢とした。

4. 土師器（土器）の変化

○7世紀後半（飛鳥時代後期）

【標識遺跡】下藤根遺跡 SI01, SI07 竪穴建物跡、樋向遺跡 SI01, SI02 竪穴建物跡

下藤根遺跡 SI01 竪穴建物跡

（土師器）坏（1, 2）・高坏（3～5）・壺（9, 12）・甕（10, 11, 13, 14～16）・甗（16）

下藤根遺跡 SI01 竪穴建物跡

（須恵器）坏蓋（7）、（土師器）坏（5, 6）・大型坏（1～3）・高坏（4）・壺（9）・甕（8～10）

樋向遺跡 SI01 竪穴建物跡

（土師器）坏（1, 3）・大型坏（2）・甕（5, 6）・鉢（4）

樋向遺跡 SI02 竪穴建物跡 【須恵器】坏（7）

（土師器）坏（8, 10, 12）・大型坏（11）・高坏（13, 14）・壺（2）・甕（1, 3）・甗（5）・支脚（6）

*基本的に、手づくねの在地土師器から構成される。須恵器は少なく搬入されたもの。

*坏は、成形方法から土器体部下半外内面に稜がある。

*大型坏が定量ある。

*甕は、胴が長いのと、胴部が張り出し口縁部が広いものがある。胴部最大径は上半にある。

*甕の底部が柱状となっている。

○7世紀末葉～8世紀初頭（飛鳥時代末期）

【標識遺跡】釘貫遺跡 SI105 竪穴建物跡

（須恵器）甕（1）、（土師器）坏（2～12）・壺（14, 15）・甕（16～17）・鉢（13）

*基本的に、手づくねの在地土師器から構成される。須恵器は少なく搬入されたもの。

*坏は、成形方法から土器体部下半外内面に稜がある。

*坏は、前代より法量が低下し、バリエーションが増える。

*大型坏が確認されなくなる。

*甕は、胴が長いのと、胴部が張り出し、口縁部が広いものがある。胴部最大径は上半にある。

○8世紀前葉（奈良時代前期）

【標識遺跡】釘貫遺跡 SI02 竪穴建物跡

（土師器）坏（1～5）・高坏（6, 7）・甕（8, 9, 11）・甗（10）

*基本的に、手づくねの在地土師器から構成される。須恵器が含まれる可能性がある。

*坏・高坏は、器が厚いものがある。

*坏は、外面の稜があるものや沈線を引いたものがある。内面の稜は見えにくくなる。

*甕の中に、日本海側の特徴である頸部に複数の沈線を施したものがある。

○8世紀中葉（奈良時代中期）

【標識遺跡】釘貫遺跡 SI04, SI06 竪穴建物跡

釘貫遺跡 SI04 竪穴建物跡

（須恵器）坏蓋（1）、（土師器）坏（2～6）・椀（7）・高坏（8）・甕（10）・鉢（9）

釘貫遺跡 SI06 竪穴建物跡

（土師器）坏（1, 2）・壺（4）・甕（5, 6）・鉢（3）

*基本的に、手づくねの在地土師器から構成される。

*在地産の可能性のある須恵器が含まれる可能性がある。

- * 坏は、内外面の稜が省略傾向にあり、外面に沈線を施したものが残る。
- * これまで存在しなかった椀や平底の鉢が確認される。
- * 甕の中に、日本海側の特徴である頸部に複数の沈線を施したものがある。

○8 世紀中葉～後葉（奈良時代中期～後期）

【標識遺跡】南田東遺跡 SI01 竪穴建物跡、東槻遺跡 SI301 竪穴建物跡、中清水 SI01, 02 竪穴建物跡

南田東遺跡 SI01 竪穴建物跡

- (須恵器) 坏蓋 (13, 19)・高台付坏 (22, 23)・坏 (25, 26)・椀 (24)・甕 (29)
- (土師器) 坏 (1～3)・椀か鉢 (4)・壺 (17)・甕 (7, 8)・鉢 (6)

東槻遺跡 SI301 竪穴建物跡

- (須恵器) 坏蓋 (1, 2)・坏 (3, 4)・甕 (5)
- (土師器) 坏 (6～10)・椀か鉢 (11)・甕 (12～14)

中清水 SI01 竪穴建物跡

- (須恵器) 坏 (3～5)
- (土師器) 坏 (1, 2)・高坏 (7)・甕 (11～15)・鉢 (6, 8)

中清水 SI02 竪穴建物跡

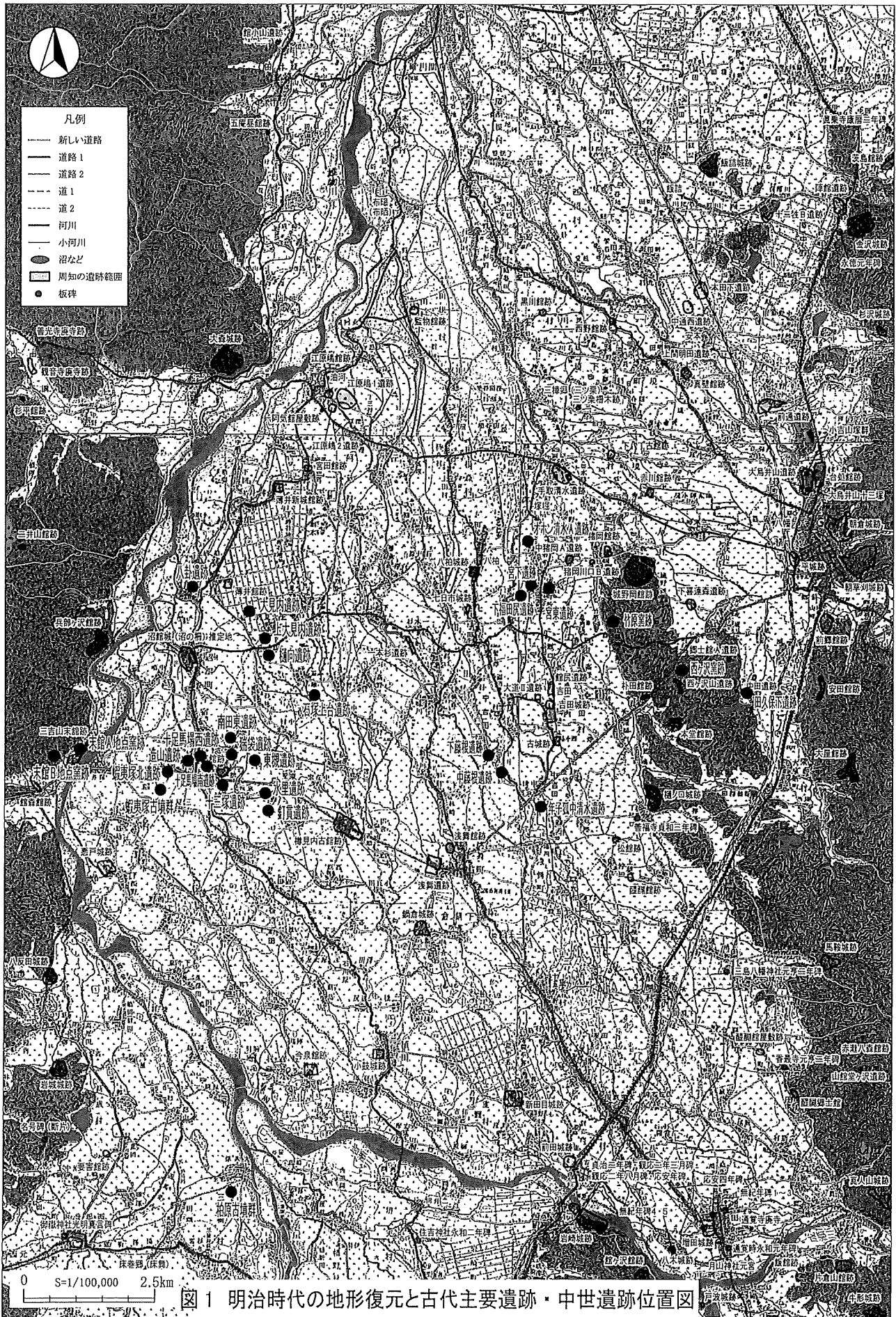
- (須恵器) 坏蓋 (7)・高台付坏 (4, 8)・坏 (5)
- (ロクロ土師器) 丸底長胴甕 (13)
- (土師器) 坏 (1～3)・高坏 (6)・甕 (11～15)・鉢 (10)

- * 手づくねの在地土師器は定量あるものの、在地生産と思われる須恵器が多くなる。
- * ロクロ成形の丸底長胴甕が初めて確認される。(後代になると坏・平底小甕・丸底長胴甕・鍋のセット関係が明確となってくる)
- * 坏・高坏には、器が厚いものがある。
- * 坏は、内外面の稜が省略傾向にあり、体部下半にあった稜（沈線）が体部上半にあるものもある。
- * 坏の底部が丸底のものも残るが、平底のものが多くなる。
- * 椀または鉢が定量確認されるようになる。
- * 甕の頸部にあった段が省略傾向となり、甕胴部は寸胴型が多くなる。
- * 土師器の坏には、在地産ではない土師器の坏やそれを模倣したもの、または須恵器を模倣したと思われるものも確認される。

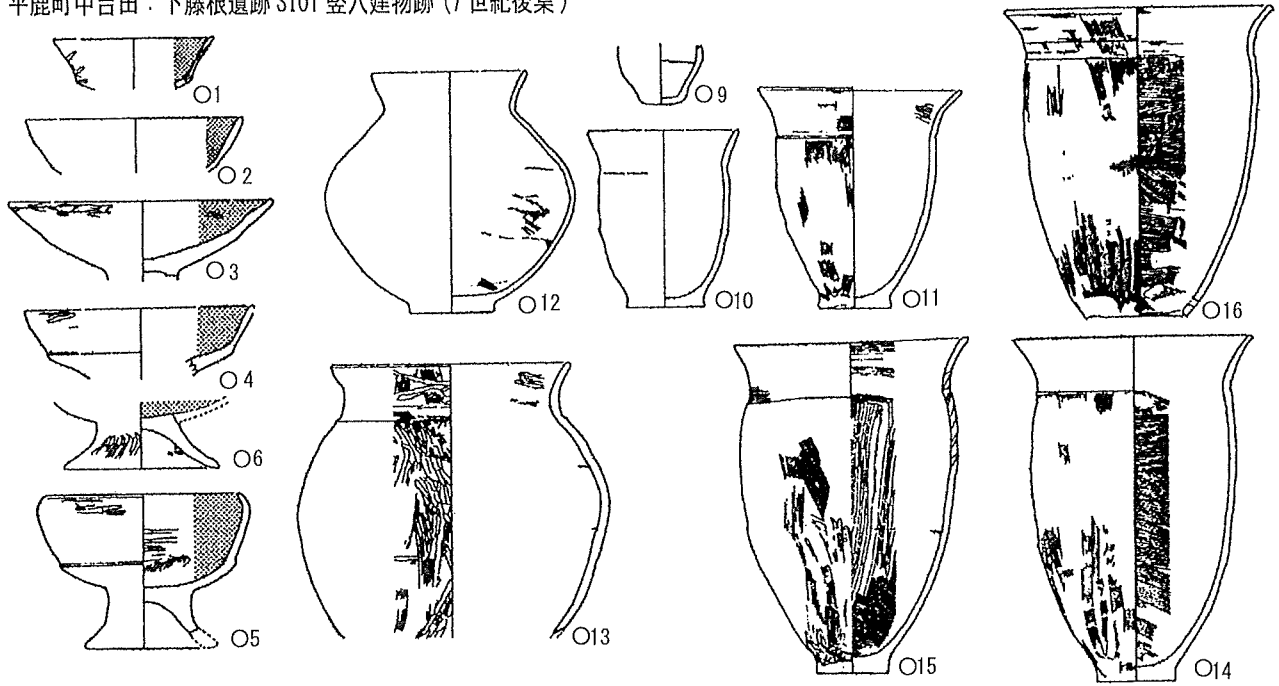
5. まとめ

- * 飛鳥時代後期から奈良時代前期の竪穴建物跡から出土する土器は、在地住人によって作られた手づくねの土師器が食器の基本であり、一部で相互交流によってもたらされた須恵器が含まれていた。
- * 須恵器は、当地に律令国家の進出によって造営された城柵官衙遺跡に供給されたもので、8 世紀中葉から後葉に操業された末館窯跡や竹原窯跡ではないものも多くなる。
- * 奈良時代中期から後期にかけて竪穴建物跡から出土する土師器の他に、須恵器が増加し始めており、ロクロが使用された土師器も確認されるようになり、食器構成が大きく変化した時期であった。
- * 今回提示した遺物は、造山遺跡群周辺の集落遺跡を主体としており、十足馬場西遺跡や猫袋遺跡では須恵器の坏の底面切り離し技法が在地集落よりも古い要素を持っているものが多い。
- * 『続日本紀』に記載された雄勝村 (733 年)、雄勝城や雄勝・平鹿郡の分割設置 (759 年) など、土器の年代を比定するには非常にデリケートで重要な問題である。

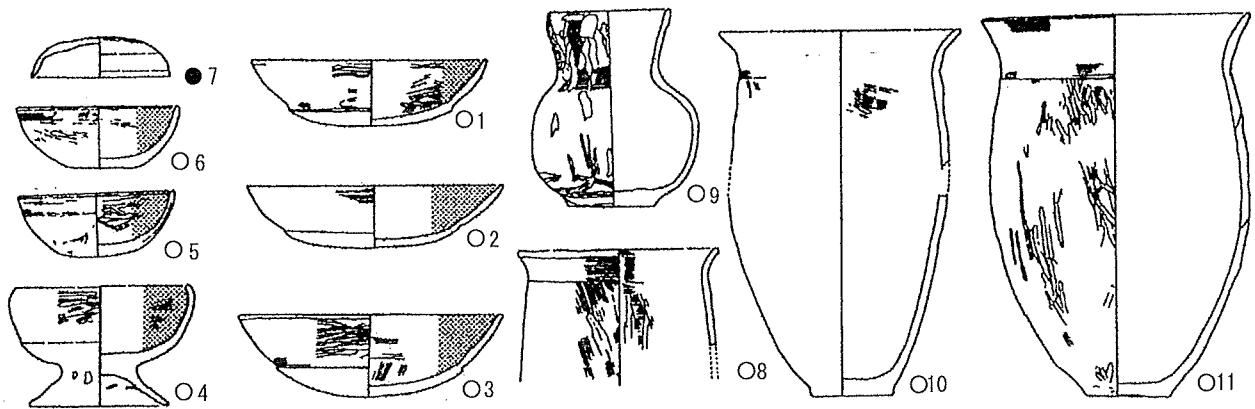
(ページ数の都合から参考文献を省略したことをご承願ください。)



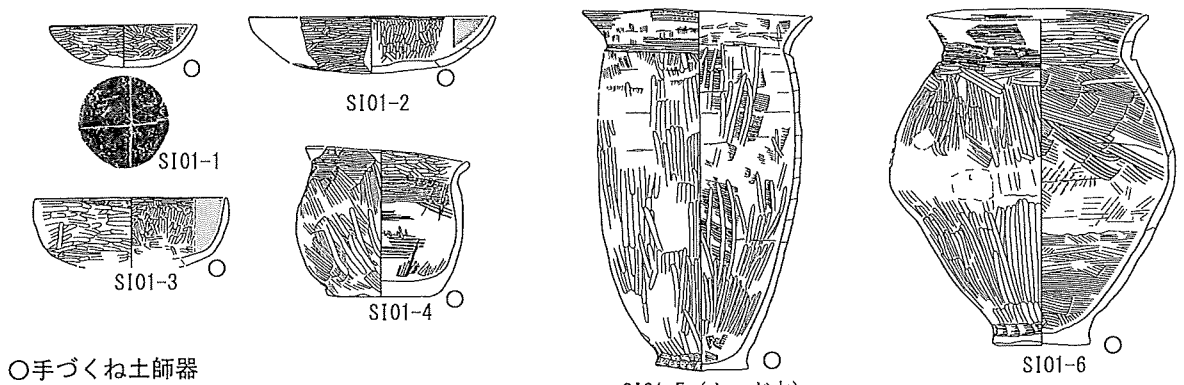
平鹿町中吉田：下藤根遺跡 S101 竪穴建物跡 (7世紀後葉)



平鹿町中吉田：下藤根遺跡 S107 竪穴建物跡 (7世紀後葉)



雄物川町会塚：樋向遺跡 S101 竪穴建物跡 (7世紀後葉)



- 手づくね土師器
- 須恵器
- △ロクロ土師器

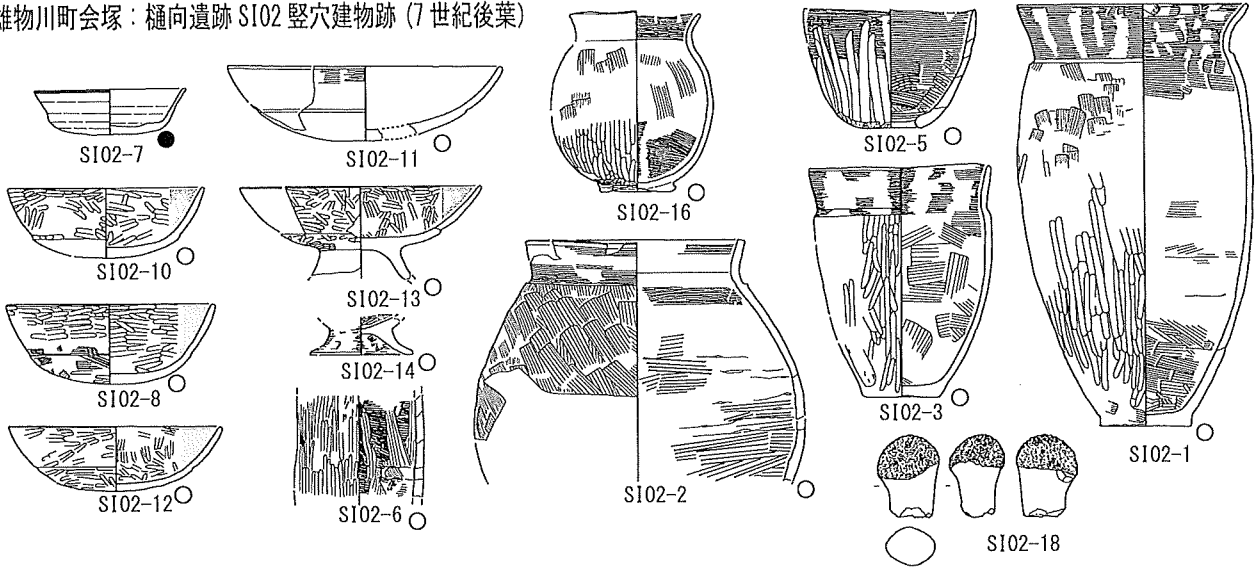
S101-5 (カマド内)

S101-6

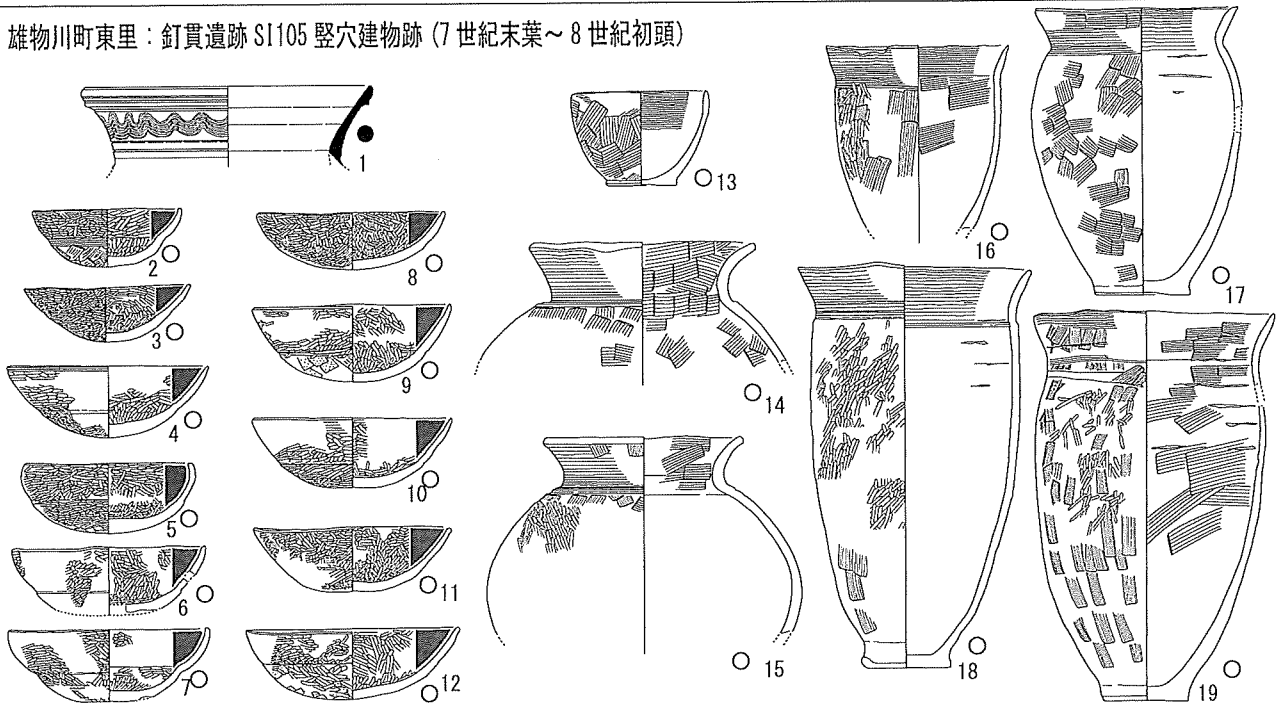
0 S=1/6 20cm

図2 飛鳥・奈良時代の土師器 (1)

雄物川町会塚：樋貫遺跡 S102 竪穴建物跡 (7世紀後葉)



雄物川町東里：釘貫遺跡 S105 竪穴建物跡 (7世紀末葉～8世紀初頭)



雄物川町東里：釘貫遺跡 S102 竪穴建物跡 (8世紀前葉)

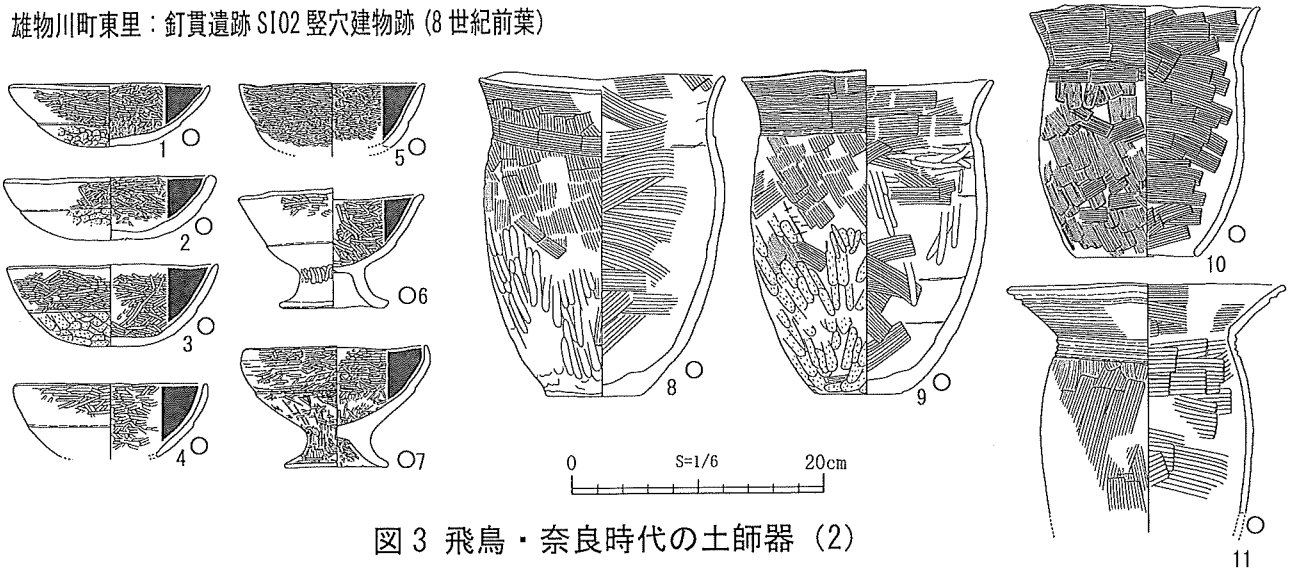
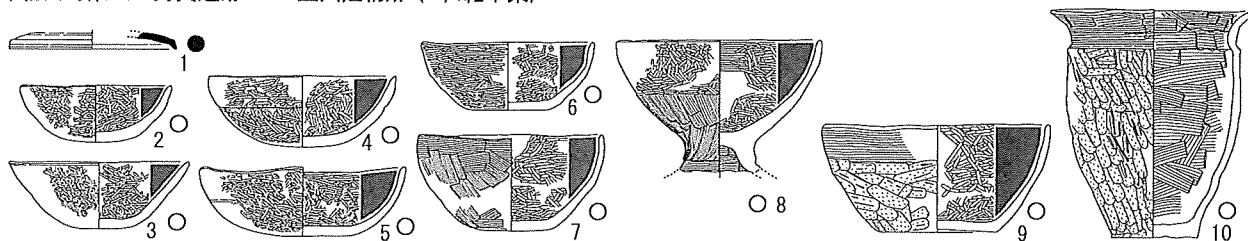
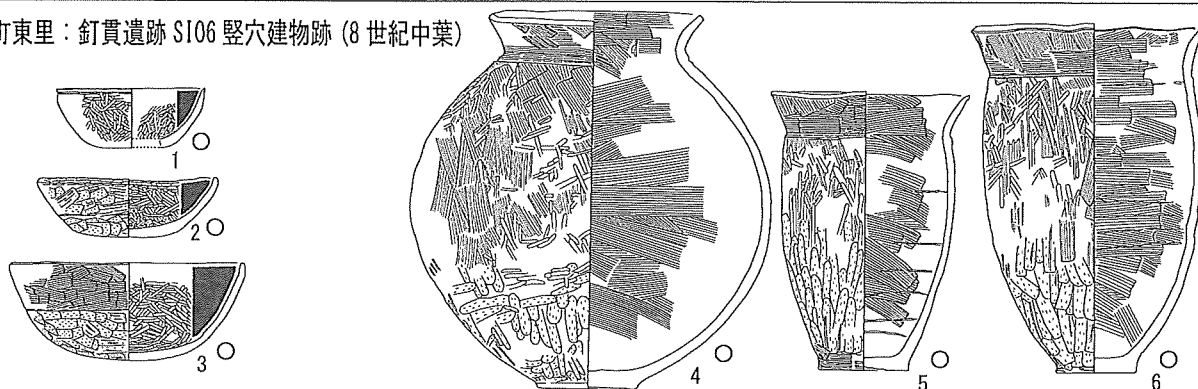


図3 飛鳥・奈良時代の土師器 (2)

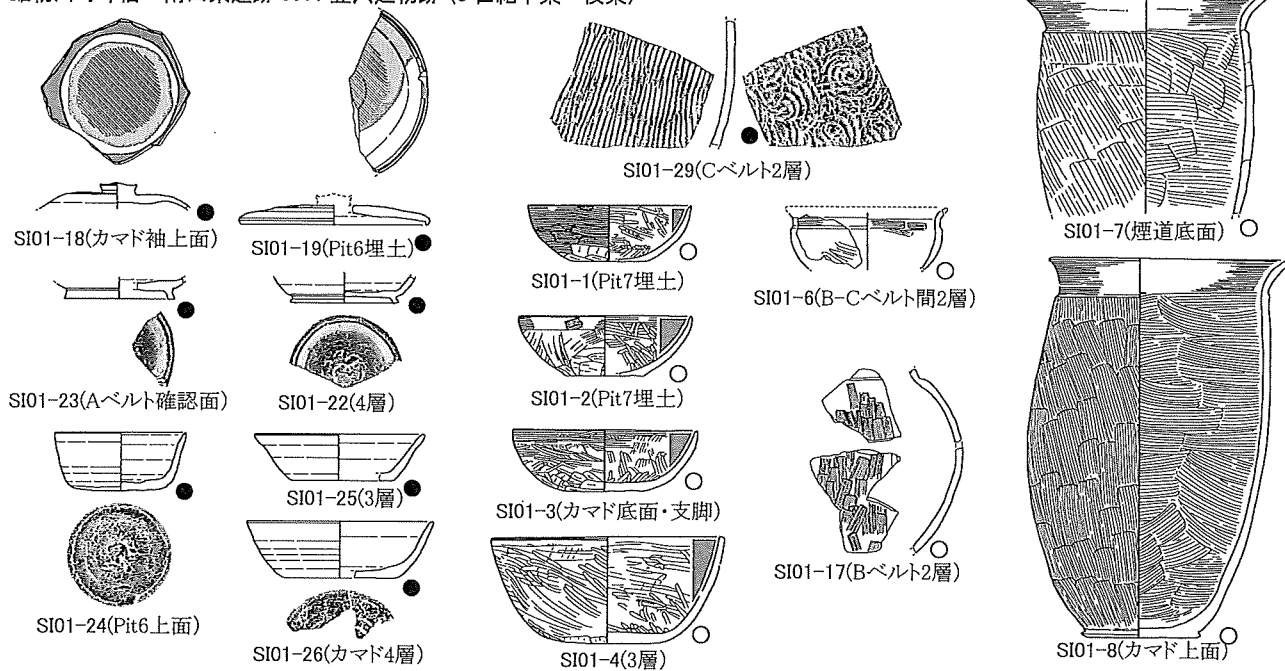
雄物川町東里：釘貫遺跡 S104 竪穴建物跡 (8世紀中葉)



雄物川町東里：釘貫遺跡 S106 竪穴建物跡 (8世紀中葉)



雄物川町今宿：南田東遺跡 S101 竪穴建物跡 (8世紀中葉～後葉)



雄物川町今宿：南田東遺跡 SK06 土坑・工事立会 (8世紀中葉～後葉)

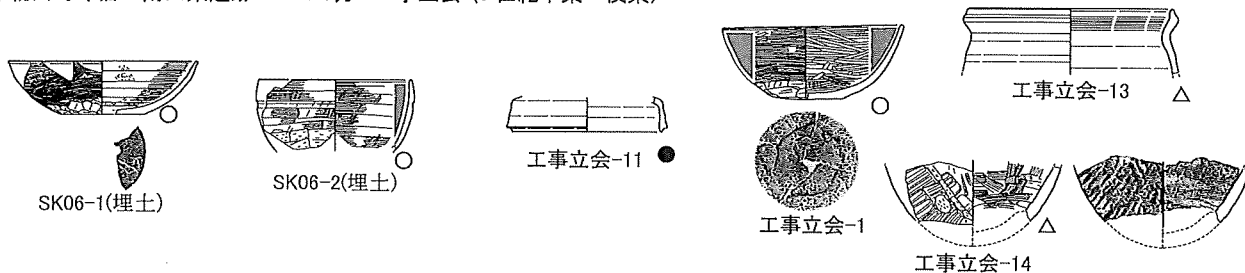
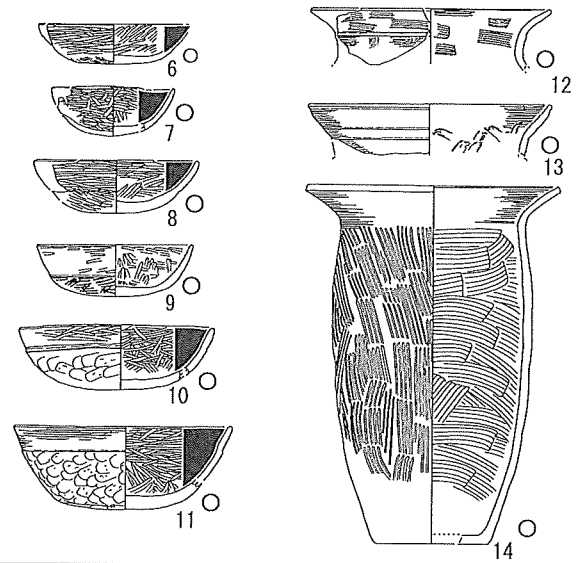
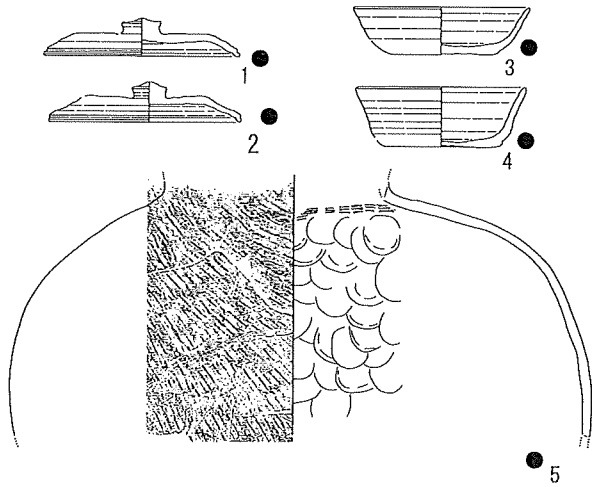
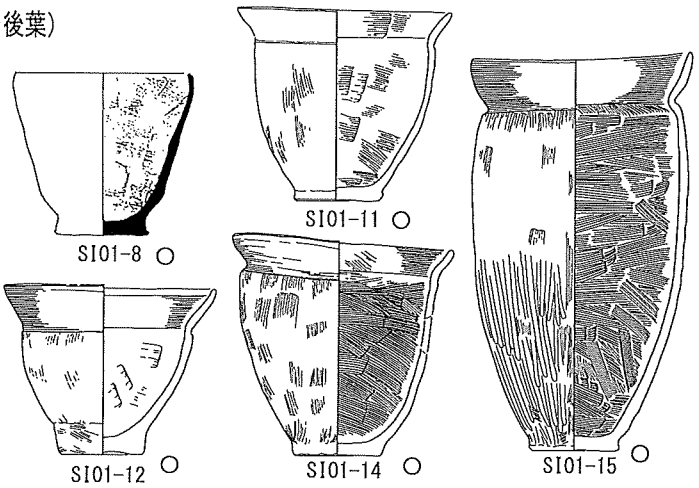
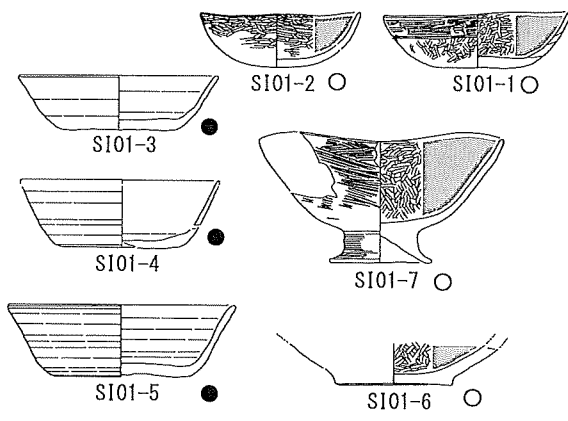


図4 飛鳥・奈良時代の土師器 (3)

雄物川町東里：東槻遺跡 S1301 竪穴建物跡 (8世紀中葉～後葉)



平鹿町年子狐：中清水遺跡 S101 竪穴建物跡 (8世紀中葉～後葉)



平鹿町年子狐：中清水遺跡 S102 竪穴建物跡 (8世紀中葉～後葉)

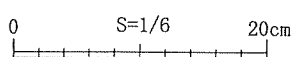
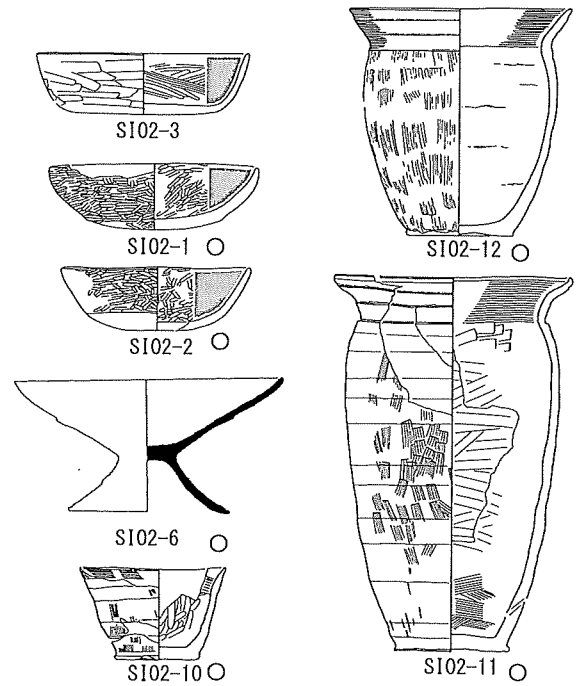
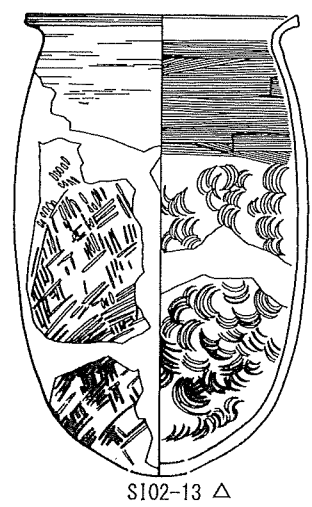
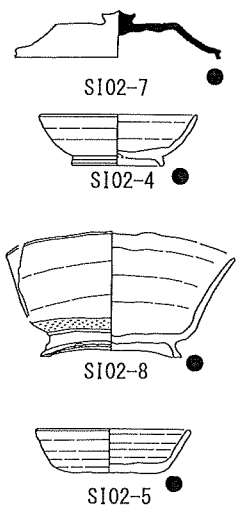


図5 飛鳥・奈良時代の土師器 (4)